

# 座禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所  
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談  
 診 察 日：月曜・木曜・金曜  
 受付時間：9:00~12:00、  
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16  
 IP Tel:058-295-9545  
 FAX:058-296-3903  
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp  
 http://zazendoh.town-web.net/  
**159号** 2017.6.1.  
 毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介



## 心と身体は切り離せません

松井英介

文献1) から引用

「美味しんぼ」鼻血事件を覚えていますか？ 私はこの作品に実名で登場した一人です。3.11東電福島第一原発事故後すでに6年以上つづく惨状を考える上で、とても参考になる本が最近出版されましたのでご紹介します<sup>1)</sup>。

「うちの子どもたちも、鼻血を出したことがある。鼻血以外にも心配なことがいくつもある。でも、お医者さんに行っても、話したことは一回もない」。

これは、この本の著者・伊藤浩志さんが紹介している、福島県在住のお母さんの声です。

そして、別のお母さんは、「放射線の影響ではないか」と医者にも問うても、「そんなことで病院にくるな。お母さんが不安に思っているから、子どもが不安になるんですよ」「医者に怒られたという声はよく聞いた。最初は心配で行くけど、だんだん行かなくなった。鼻血でそう言われると、ほかのことも言えなくなる」。

お母さんたちは医者信頼できなくなっているのです。

岐阜に移り住んだ、また「保養」で岐阜に来た、お母さんお父さんそして、誰よりも子どもたちが、大変なストレスにさらされていることはご存知だと思います。

著者の伊藤さんは、ストレスの原因が心身二元論にあるとして、権力者の次のような発言をその典型例として挙げています。

「安倍首相はテレビに登場：『放射性物質に起因する直接的な健康被害の例は確認されていない。政府としては根拠のない風評を払拭していくためにも、しっかりした**正確な情報を提供**していく。**分かりやすく提供**していく』（2014年5月17日の福島県訪問時、記者団に対して）」。

「森まさこ内閣府特命担当大臣：『**科学的事実と不安**というものをごっちゃにしているんだと思う。鼻血は放射線とは関係ないんだよということをお医者さんに聞くということが不安の解消につながると思う』（同年5月16日の記者会見で、肩書は当時）」。

夫婦親子、職場や地域の人びと、医者や教師との心の繋がりの中で私たちは生きています。例えば、夫との心のつながりにヒビが入ったとき、それを私たちは心臓や胃の痛みとして感じます。そして、現に、心臓や胃に病気が起こるのです。

心と身体は決して切り離せません。心身二元論に惑わされることなく、諦めずに医者たちともおつき合ってください。下記参考文献のサイトにアクセスして、内科医・肥田舜太郎さんや小児科医・山田真さん、東電福島原発事故調査委員を務められた医師・崎山比早子さんのご意見をお読みください<sup>2)</sup>。

### 参考文献

- 1) 伊藤浩志「復興ストレス—失われゆく被災の言葉—」（2017年），彩流社，P. 28
- 2) 『美味しんぼ』福島の真実編に寄せられたご批判とご意見』スピリッツNo. 25，巻末資料，2014-06-02，小学館。http://spi-net.jp/special/spi20140519/spi20140519.pdf